

「指導例」を有効に活用した単元構成のアイデア（中学校第1学年）

1 めざす子どもの姿

(1) 身に付けさせたい言語の力

文の組み立てを正しく理解し、自分の表したいことが的確に伝わる文を書く力（第1学年「書くこと」(エ)、
「伝国」イ(ア)）

(2) 「身に付けさせたい言語の力」に関する子どもの実態

小学校の時に主語・述語について学習してきたが、ほとんどの生徒がよく覚えていない。復習をすることにより、文中の主語・述語を見付けることはできるようになるものの、実際に文を書かせると、「私がグラフを見て思ったことは、…が一番多い。」など、主・述の関係が整っていない文を書くことがある。また、生徒同士の会話においても、主語や述語が明確でないために意図が十分に伝わらず、誤解が生じる場合がある。

(3) 年間指導計画上の位置付け

小学校では、主語、述語、修飾語について簡単に学習してきた。中学校では1学期に「言葉の単位」について学び、その中で文節について理解した。それらを受け、今回は、文節同士の関係として、主・述の関係（主語・述語）、修飾・被修飾の関係（修飾語）、接続の関係（接続語）、独立の関係（独立語）について学習する。さらに、連文節の意味、並立の関係、補助の関係、文の組み立てについても学習する。主・述の関係、修飾・被修飾の関係については、小学校での学習の復習を通して確認することとする。復習の際には、「指導例『主語・述語』」*等を用い、定着を図りたい。

〔滋賀県学校改善アクションプラン推進協議会授業改善・調査部会(国語部会)作成〕

2 単元名(題材名)

第1学年「文の組み立てを考えて、整った文を書こう（だれが・何を・どうする?）」

3 題材観

私たちがふだん書いたり話したりしている言葉は、意味や発音により、幾つかのまとまりに分けることができる。これを「言葉の単位」といい、文章・談話、段落、文、文節、単語の段階がある。本題材はその中の文節を取り上げ、文節同士の関係や連文節について、例文や練習問題文を通して理解が深められるように構成されている。また、複雑な文について、文節がどのように組み立てられ、関係し合っているかということ、例文や練習問題文を通して考え、確認できるように構成されている。

主・述の関係について学習する際には、教科書での学習に加えて、「指導例『主語・述語』」を取り入れた学習を行うこととする。主語の違う同意の文を書くことによって主・述の関係の整った文を書けるようにし、さらに、主・述の関係の整った文が書けなければ正しい考えを展開することができないという問題意識をもたせて、文法を学ぶことの大切さを実感させたい。

4 学習目標

- ・文の組み立てと意味に着目し練習問題に取り組むことができる。(国語への関心・意欲・態度)
- ・条件に合わせて自分の考えを書きまとめることができる。(書く能力)
- ・文節同士の関係、連文節、文の組み立てについて理解することができる。(言語についての知識・理解・技能)

5 評価規準 []は関連する指導事項

国語への関心・意欲・態度	書く能力	言語についての知識・理解・技能
○文のきまりに関心をもち、文節同士の関係などについて理解しようとしている。 ○文節同士の関係と連文節を意識しながら文を組み立て、分かりやすい文を書こうとしている。	○文節同士の関係と連文節について理解を深め、それらを意識しながら文を組み立て、分かりやすい文を書いている。〔書くこと(エ)〕	○文節同士の関係、連文節、文の組み立てについて整理した内容を理解している。〔伝国イ(ア)〕 ○文節同士の関係、連文節、文の組み立てについて理解し、書くことなどにも生かそうとしている。〔伝国イ(ア)〕

6 学習計画(全7時間) []は関連する指導事項

次	時	主な学習活動	評価規準、評価方法(☆)
1	2	・p222、p 223の「1 主・述の関係(主語・述語)」についての説明を読んで理解する。 ・例文を使って、主・述の関係の整った文とはどのような文であるかを理解する。 (本時 2/2)	・文のきまりに関心をもち、文節同士の関係などについて理解しようとしている。 ・主・述の関係について理解し、文中の主語と述語を正しく指摘している。〔伝国イ(ア)〕 ☆ワークシートによる評価 ☆観察による評価
	1	・p223の「2 修飾・被修飾の関係(修飾語)」についての説明を読んで理解し、練習問題に取り組む。	・修飾・被修飾の関係について理解し、文中で正しく指摘している。〔伝国イ(ア)〕 ☆ワークシートによる評価
	1	・p224の「3 接続の関係(接続語)」「4 独立の関係(独立語)」についての説明を読んで理解し、練習問題に取り組む。	・二つのタイプの接続語について理解している独立語について理解している。〔伝国イ(ア)〕 ☆ワークシートによる評価
	1	・p225の「並立の関係」と「補助の関係」についての説明を読んで理解し、練習問題に取り組む。	・並立の関係、補助の関係について理解している。〔伝国イ(ア)〕 ☆ワークシートによる評価
	1	・p225の「1連文節」についての説明を読んで連文節の働きを確かめ、文節同士の関係を考える。	・連文節がどのようなものか理解している。〔伝国イ(ア)〕 ☆ワークシートによる評価
	1	・p226「2文の組み立て」についての説明を読み、どのように書いたら文意が正確に伝わるかを考えて、100字程度の作文を書く。	・文節同士の関係と連文節を意識しながら文を組み立て、分かりやすい文を書こうとしている。 ・文節同士の関係、連文節、文の組み立てを意識しながら、分かりやすい文を書いている。〔書くこと(エ)、伝国イ(ア)〕 ☆作文による評価

7 本時の学習目標

「主・述の関係の整った文を書く」という条件に合わせて書くために、まず、主・述の関係の整った文とはどのような文かということを理解する。その後、主・述の関係の整った文を書く練習をする。

8 本時の学習過程 ()は評価項目

過程	学習内容および学習活動		指導上の留意点、評価 (◎)
	学習内容	学習活動	
導入	1 本時の目標を確認する。 「文のきまりについて考えてみよう～主・述の関係を整える～」	①主・述の関係が整っていない文を提示し、どこがおかしいかを考える。	・主語と述語の整った文を書くことの必要性に気付かせる。
展開	2 主語・述語を入れた短文を書く。 3 班で交流し、主・述の关系到に着目する。 4 正しい主・述の関係を把握する。	②指導者が紙切れをつまんで落とすところを観察して、その様子を一文で3例書く。(学習プリント1) ③書いた文を交流して、共通点や相違点を探す。また、よいと思った文を書き加える。(学習プリント1) ④主・述の関係の整った文を書く練習をする。(学習プリント2) ⑤交流し、主・述の関係が整っているかどうかを確認する。 ⑥それぞれが主・述の関係が整っていない文を作り、提示し合う。互いに間違っている部分を探し、説明し合う。	・「紙切れが」「先生が」「床(机)が」等を主語に、比較的簡単に発想して書く生徒が多いと思われる。発想しにくい生徒には、「紙切れの落下の特徴は」を主語にして書くことも促す。 ・「○○の□□は」という型の主語をもつ文では述語を「～ことだ」と書き、主語と述語を合わせて整えることが大切であることに気付かせる。 ◎主・述の关系到に着目して、自他の表現の共通点や相違点を二つ以上見つけることができる。(言語についての知識・理解・技能) ・例題を用いて理解させる。 ・分かりやすく、誤りのない文にするためには、「○○の□□は」という主語の場合は「～ことだ」という述語にするという配慮に加え、一文は短く書く方がよいことや、主語と述語の距離は短い方がよいことにも気付かせる。 ・間違った文を作らせることにより、深く理解させ、定着を図る。 ・時間の余裕のあるときには、プリント3の応用問題を行う。 ◎主語と述語を対応させて、主語または述語を適切に書き換えている。(言語についての知識・理解・技能)
整理	5 次時からの学習内容を知る。	⑦主・述の関係以外にも、文を書くときに意識しなければならない文節同士の関係のあることを知る。	